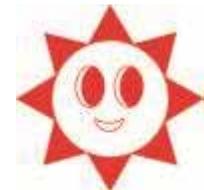




2011年3月期 決算説明会

ケンコーマヨネーズ株式会社

2011年 5月 20日



本日の内容



説明者： 代表取締役 社長

炭井 孝志

- . 2011年3月期 決算の概況
- . 2012年3月期 業績予想
- . 質疑応答
- . 添付

参考資料【1】【2】及びお問い合わせ先

「東日本大震災」の影響



2011年3月11日に発生いたしました「東日本大震災」により、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

当社グループでは、物流における混乱や原料・資材等の入手が一時ひっ迫しましたが、営業・生産拠点への直接的被害は軽微でした

今回の震災を踏まえ、今後のリスク管理体制を一層強化します

東京電力の計画停電により関東地区の工場から関西地区の工場に生産の一部を移しましたが、影響は限定的でした

2011年3月24日、東京証券取引所市場第二部に上場いたしました

2011年3月期配当は、東証上場記念配当5円を加えた20円とする議案を定時株主総会に付議いたします

東証上場に合わせ、公募増資を行い、資本金及び資本準備金が7億2百万円増加し、株主数が4,000名を超えました

増資資金の用途：

- ・西神戸工場 タマゴ加工品製造設備に充当(2011年2月完成)
- ・西日本工場 マヨネーズ・ドレッシング製造設備に充当
(2012年1月着工予定)



. 2011年3月期 決算の概況





業務用食品業界

消費者の節約志向は変わらず、価格競争は激化しており、
客単価の下落が続いている
但し、夏の酷暑以降は市場全体の売上は堅調であった

1. 中期経営計画(KVR)の指針に基づく事業戦略及び販促活動により、販売数量は前期並み(100.7%)を維持
2. 販売単価は前期比 0.9%の微減
3. 食用油等の原料価格は、下期に相場上昇局面に転換
4. 前期比 売上高0.9%の微減、経常利益6.0%の減少、計画比では経常利益11.7%の増加を達成

中期経営計画(KVR2010) 二年目の主な成果(1)



2011年3月期 決算の概況

商品開発の成果

- ・新機軸商品の展開 : 実績 134アイテム / 28億円増収
(健康志向に対応したケンコーディライトシリーズ、低カロリードレッシング、
新型ドレッシング [西日本工場DR統合ライン] 等)
- ・CVS米飯用等調理加工液卵の導入 : 実績 10アイテム / 0.8億円増収
(タマゴソース)
- ・製パン分野に特化した商品の導入 : 実績 43アイテム / 4億円増収
(原料・素材加工技術)

販売促進活動

- ・お客様展示会への参加 : 429回
- ・当社工場への招聘 : 188回



生産性の向上

- ・生産改革の推進と継続(ムダ、ムラ、ムリの徹底排除)
- ・TPM活動の推進(生産効率を極限まで高める)
- ・設備更新などによる生産性向上
- ・商品の絞り込み 269品目廃番
- ・生産革新への取り組み(ドレッシング統合ラインの導入等)
- ・環境設備投資(ゼロエミッション、省エネ設備導入)
E S C O事業(Energy Service Company)の取り組み
高効率設備を導入し、CO₂ 715トン削減
(森林に換算すると東京ドーム1杯分に相当)

最適生産体制の確立

物流の効率化

- ・最適物流体制構築への取り組み継続：費用削減 27百万円
(複数拠点生産及び同配送の充実、製品在庫の圧縮、商品荷姿の最適化等)

生産革新 西日本工場「ドレッシング統合ライン」の稼働

2011年3月期 決算の概況



【生産ライン・コンセプト】

- 全行程をプログラミングにより管理し、フルオートメーション化されたドレッシング生産
- 4つのキーワード
「先進性・工程改善」、「高品質・おいしさ」、「安心・安全」、「環境への取組み」
をもとに、徹底した製品の衛生管理と検査体制にて9月より生産開始。
- 生産実績：ドレッシング4種 12アイテム 256トン

【統合ライン(全景)】



【充填機】



生産、販売、環境への取り組み

大型形態マヨネーズ供給システム

2011年3月期 決算の概況



【コンセプト】

「大型形態マヨネーズ」 + 「マヨネーズ供給設備」 + 「サニテーション・メンテナンス」 3点セット

当社がお客様とメンテナンスリース契約を締結(契約年数:6~8年)

「大型形態マヨネーズ」(190kgドラム又は1トンコンテナ)をお客様に供給

システムのご提案から設置まで、お客様に提供

サニテーション業者と契約を結び、設備の「サニテーション・メンテナンス」サービスをお客様に提供

【お客様のメリット】

作業の省力化、廃棄物の削減

例) 10kgカートン形態を20個使用している 190kgのドラム缶形態に変更

20個を開封する手間がなくなる、袋・カートンの廃棄物量が削減

メンテナンスリース方式によって、お客様の初期投資がありません

設備のサニテーション・メンテナンスが、サニテーション業者定期訪問により実施

【実績】 契約数: 1件 納入実績: 22トン
商談中: 2件

ドラムフィーダー



損益計算書の概要(連結)

2011年3月期 決算の概況



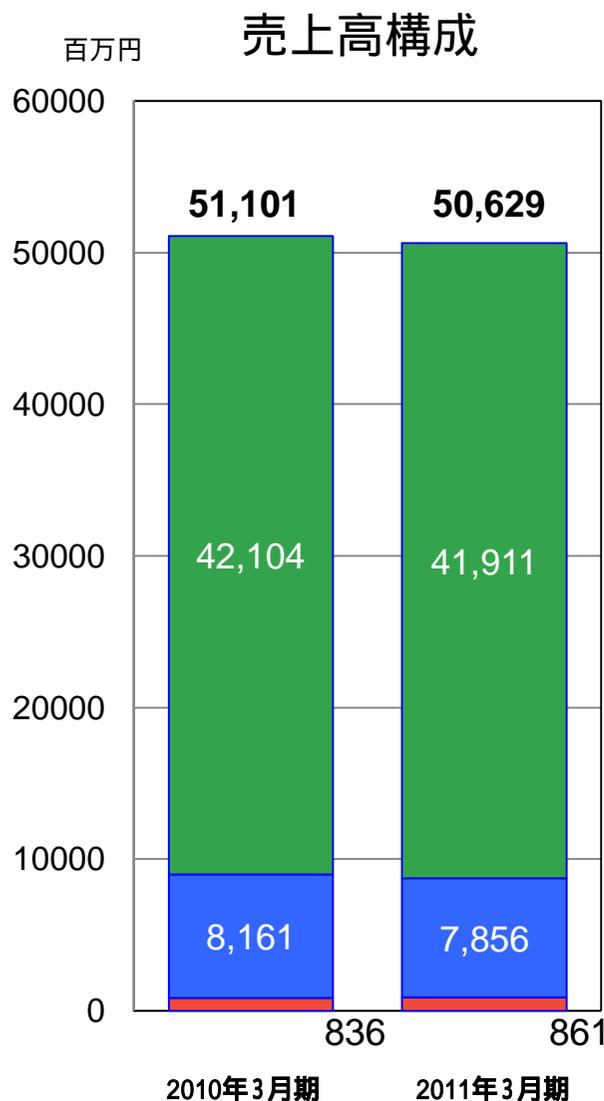
単位:百万円・%

	2010年3月期			2011年3月期				2011年3月期 計画 (2010/05/12発表)	
	金額	構成比	前期比	金額	構成比	前期比	計画比	金額	構成比
売上高	51,101	100.0	-3.9	50,629	100.0	-0.9	-1.7	51,500	100.0
売上総利益	14,348	28.1	16.7	14,092	27.8	-1.8	-	-	-
販売管理費	11,397	22.3	0.7	11,319	22.4	-0.7	-	-	-
営業利益	2,951	5.8	202.0	2,773	5.5	-6.0	7.8	2,570	5.0
経常利益	2,853	5.6	209.9	2,681	5.3	-6.0	11.7	2,400	4.7
税金等調整前 純利益	2,681	5.2	263.8	2,443	4.8	-8.9	-	-	-
当期純利益	1,446	2.8	380.6	1,319	2.6	-8.8	7.2	1,230	2.4
1株当たり 当期純利益	112円27銭			103円47銭				95円48銭	

- 新機軸商品の拡販、取引先との関係強化等により、景気停滞やデフレの影響による販売単価の下落を軽微に止めた。この結果、計画比売上高は1.7%の減収であったが、コストの低減等により、計画比営業利益7.8%、経常利益11.7%の増加。

決算概況(連結)(1) セグメントの概況

2011年3月期 決算の概況



調味料・加工食品事業

総菜関連事業等

その他(ショップ&海外事業)

セグメント売上高は、外部顧客に対する売上高である

調味料・加工食品事業

(調理加工食品、マヨネーズ・ドレッシング類、タマゴ加工品)

- 減少が続いていた販売重量は前期並みを維持(前期比0.6%増)したが、販売単価は前年をやや下回る(同0.7%)結果となったため、売上は微減となった(同0.5%)。

商材別前期比	売上高	販売重量
調理加工食品	+2.3%	+3.2%
マヨネーズ・ドレッシング類	4.7%	4.1%
タマゴ加工品	+5.4%	+8.3%

総菜関連事業

(フレッシュ総菜[日配サラダ、惣菜]、グループ内生産受託)

外部顧客に対する売上に関する概況

- セグメント全体では、販売重量が微増したが(前期比+1.3%)、販売単価は下落した(同1.4%)結果、減収となった(同3.7%)。
- 減収は、九州地区における商品構成の見直し及び関東地区における得意先の低価格化政策による売上減によるもの。一方、関西地区及び中国地区はポテトサラダ、マカロニサラダなどの主力商品の導入を戦略的に進めた結果、7%程度の増収となった。

決算概況(連結)(2) セグメント 決算の概要

2011年3月期 決算の概況



単位:百万円・%

	調味料・加工食品事業					総菜関連事業等				
	2010年3月期		2011年3月期			2010年3月期		2011年3月期		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	金額	構成比	金額	構成比	前期比
外部売上高 ^{*1}	42,104	98.9	41,911	98.9	-0.5	8,161	53.7	7,856	51.8	-3.7
内部売上高 ^{*2}	478	1.1	467	1.1	-2.3	7,048	46.3	7,315	48.2	3.8
売上高	42,582	100.0	42,378	100.0	-0.5	15,210	100.0	15,172	100.0	-0.2
経常利益	2,543	6.0	2,426	5.7	-4.6	303	2.0	262	1.7	-13.8

	その他(ショップ事業、海外事業)					調整額		損益計算書の合計額	
	2010年3月期		2011年3月期			2010年	2011年	2010年	2011年
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	3月期	3月期	3月期	3月期
外部売上高 ^{*1}	836	100.0	861	100.0	3.0	-	-	51,101	50,629
内部売上高 ^{*2}	-	-	-	-	-	-7,526	-7,782	-	-
売上高	836	100.0	861	100.0	3.0	-7,526	-7,782	51,101	50,629
経常利益	-1	-	4	0.5	-	7	-11	2,853	2,681

*1: 外部顧客に対する売上高

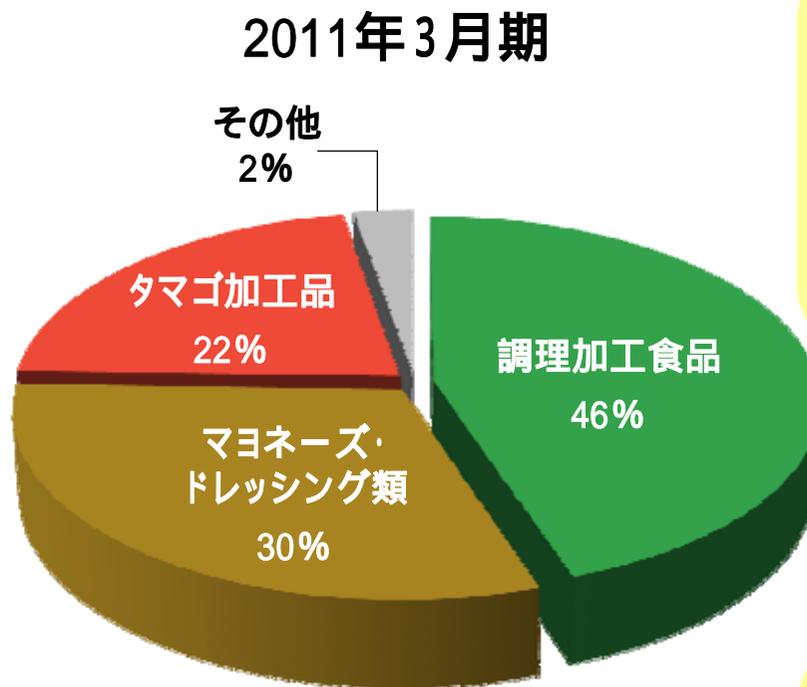
*2: セグメント間の内部売上高又は振替高

決算概況(連結)(3) 商材別売上高構成比

2011年3月期 決算の概況



販売額ベース



写真は使用例

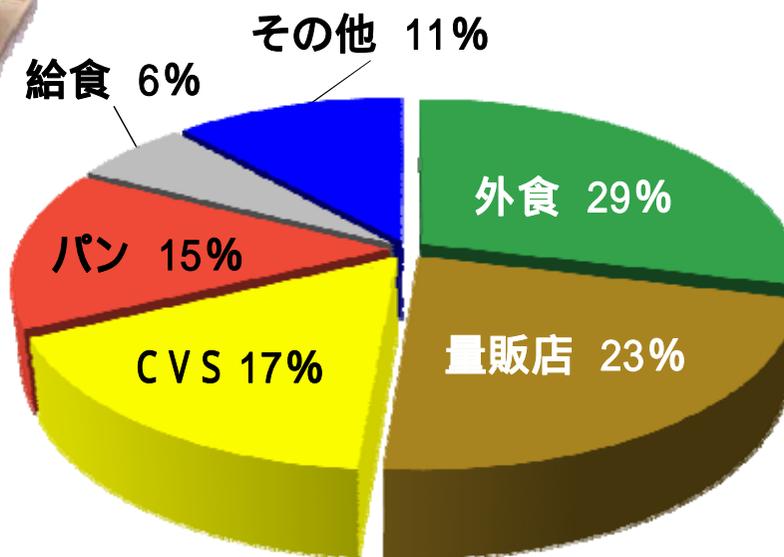
決算概況(連結)(4) 分野別売上高構成比

2011年3月期 決算の概況



■ 販売額ベース

2011年3月期



写真は使用例

決算概況(連結)(5) 分野別の主要顧客

2011年3月期 決算の概況



外食：ファストフード(ハンバーガー・ピザ・チキン・うどん・回転寿司・牛丼・定食、他)、ファミリーレストラン、居酒屋、コーヒーショップ、他

量販店：スーパーマーケット(全国チェーン・地方チェーン)

CVS：コンビニエンスストア

パン：製パンメーカー、リテールベーカリー

給食：事業所・病院等へのコントラクトフードサービス、学校給食

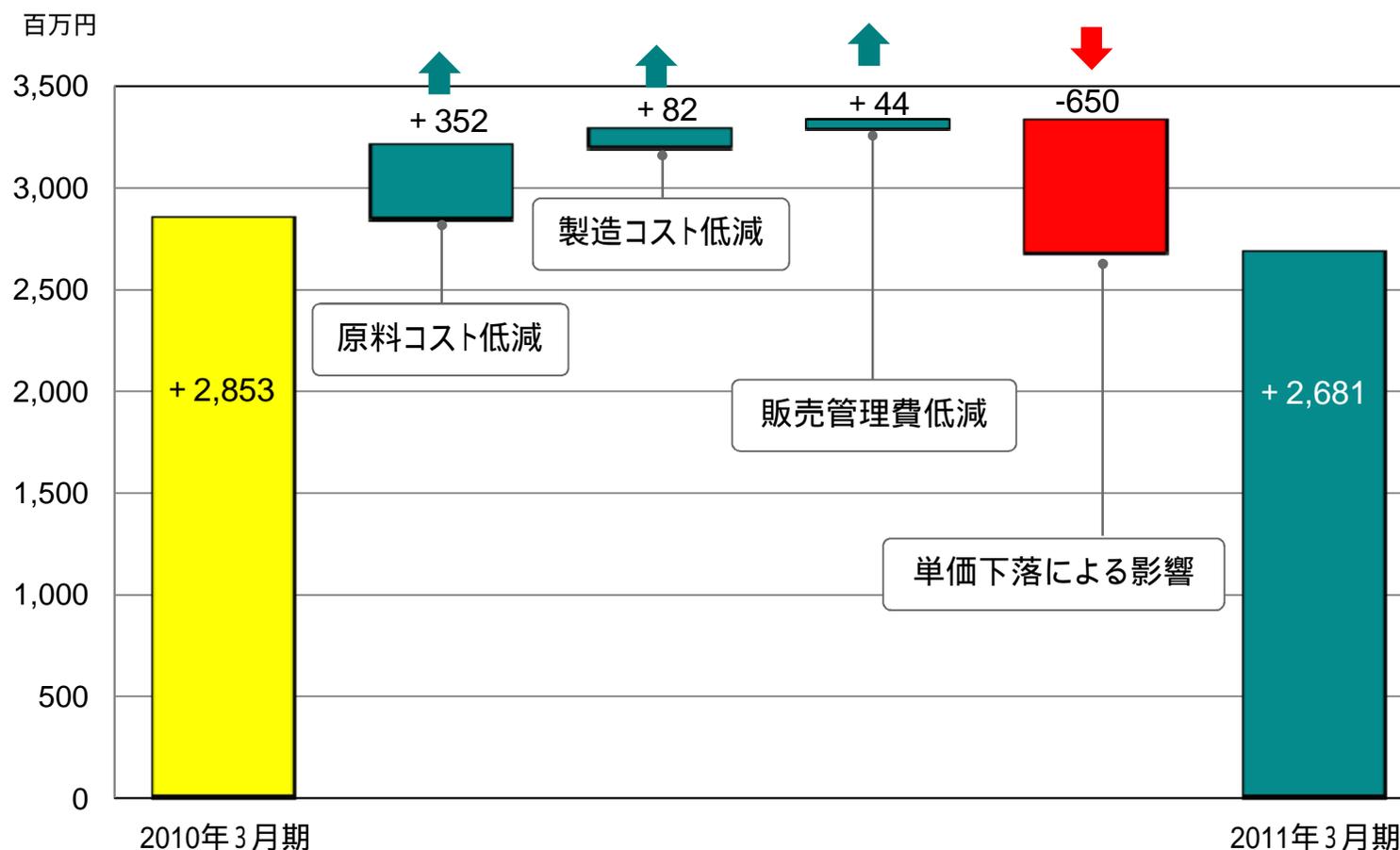
その他：生協、業務用食材スーパー、他

決算概況(連結)(6) 経常利益増減

2011年3月期 決算の概況



- 製造コストの低減、原料コストの低減に努力したが、販売単価下落により、営業利益は前期比177百万円の減益、経常利益は前期比172百万円の減益となった。



貸借対照表の概要(連結)



2011年3月期 決算の概況

財政状態

単位:百万円・%

		2010年3月期	2011年3月期	増減	前年度末比
資 産	流 動 資 産	15,966	16,203	236	1.5
	固 定 資 産	13,809	14,550	741	5.4
資 産 合 計		29,775	30,753	978	3.3
負 債	うち有利子負債残高	8,059	7,531	-528	-6.6
		18,859	18,042	-816	-4.3
純 資 産	うち少数株主持分	0	0	0	0
		10,916	12,711	1,794	16.4
負 債 ・ 純 資 産 合 計		29,775	30,753	978	3.3
1 株 当 たり 純 資 産		847円39銭	894円47銭	47円08銭	5.6

- 有利子負債は528百万円の減少
- 純資産は前期比16.4%増加し、1株当たり純資産が894円47銭に増加した
- 自己資本比率は前期比4.6%改善し、41.3%となった

キャッシュフローの概要(連結)



2011年3月期 決算の概況

単位:百万円

キャッシュフローの状況	2010年3月期	2011年3月期	増減
営業活動によるCF	3,402	1,926	-1,475
投資活動によるCF	-1,095	-1,971	-875
財務活動によるCF	-1,730	16	1,747
現金及び現金同等物期末残高	5,606	5,557	-48

- 営業CFは前期比1,475百万円の減少。主に税金等調整前当期純利益2,443百万円、減価償却費1,027百万円、法人税等の支払額1,682百万円による
- 投資CFは有形固定資産取得等の支出により1,971百万円のアウトフロー
- 財務CFは、長期借入金収入994百万円、及び同返済1,913百万円、株式発行による収入702百万円等により、前期比1,747百万円の増加



. 2012年3月期 業績予想





■ 業務用食品市場の動向

- 2010年夏場の酷暑以降引き続き、ファストフードやファミレス、コーヒーチェーンなど客数が伸びて売上好調な業態もあるが、消費者の節約志向は変わらず、外食産業全体もコンビニエンスストアも総じて客単価を落としていて、価格競争が激化している。
- 本年3月に発生した東日本大震災以降は、外食産業全体で売上を大きく落としており、特に夏場は節電対策も絡み、消費回復への見通しが立てにくい状況である。



■ 原料相場の動向

● 食用油

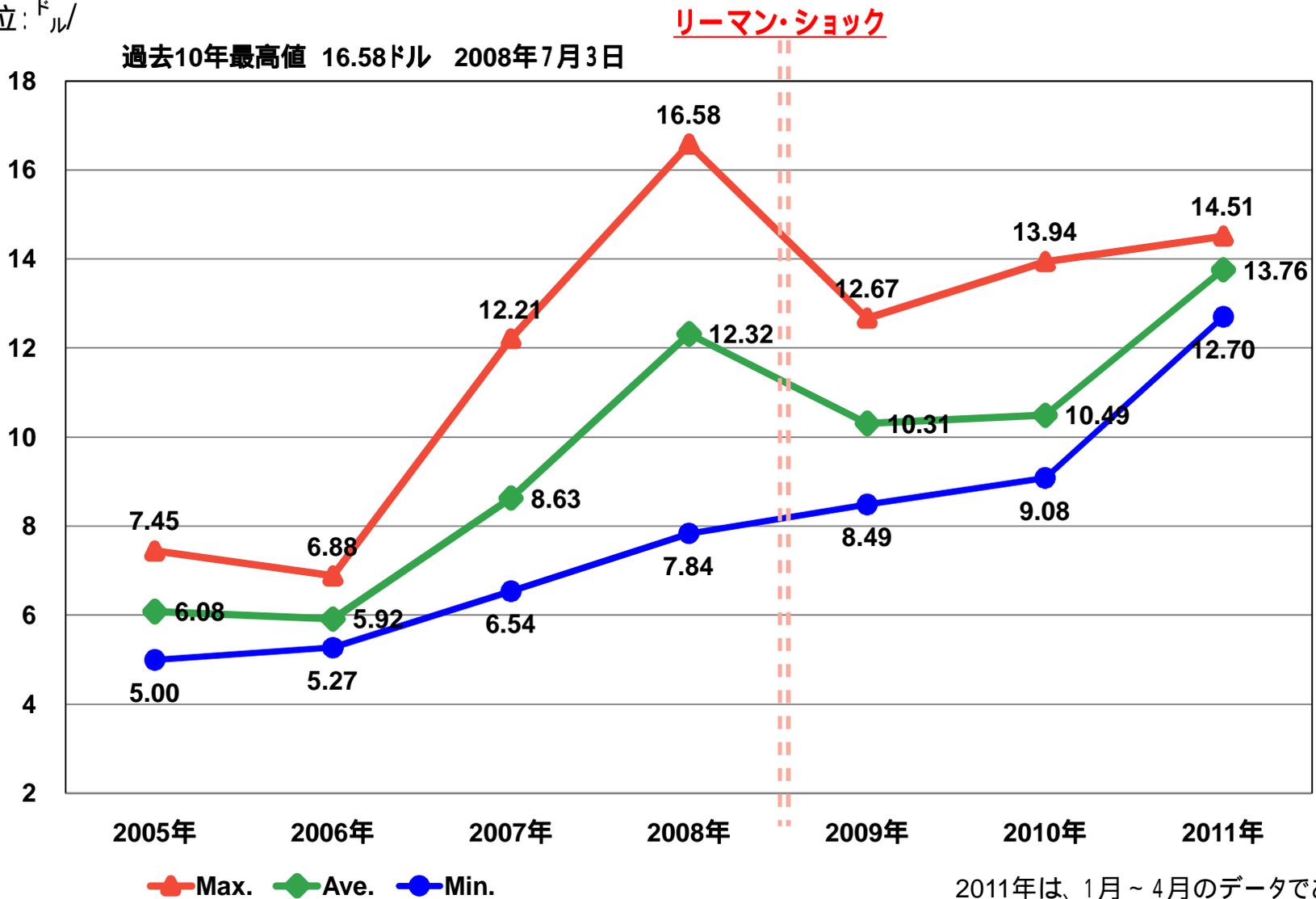
- 2010年前半、原料大豆先物相場は、9～10ドル/ブッシェルで比較的安定して推移していたが、ロシアの小麦輸出禁止(2010年8月以降)やコーン先物相場の上昇をきっかけに、天候要因や中国の大豆輸入量拡大の影響で、2010年後半から13～14ドルで取引されている。
- 世界的に増え続ける穀物の需要に対して供給量の拡大には限界があり、また、ファンド資金が穀物相場に流入していることもあり、穀物相場の高値安定、又は、さらなる上昇が懸念される。

業界を取り巻く環境(3) シカゴ大豆相場の推移

2012年3月期 業績予想



単位:ドル/





■ 原料相場の動向

● 鶏卵

- 2010年夏より鶏卵相場は高値で推移してきたが、2010年第4四半期に発生した鶏インフルエンザ、及び、本年3月に起きた東日本大震災の影響による餌付け羽数急減から、さらに上昇している。
- 2011年度は、餌付け羽数減少からの回復が見込めない可能性が高く、鶏卵相場はさらなる高値圏で展開する見通し。

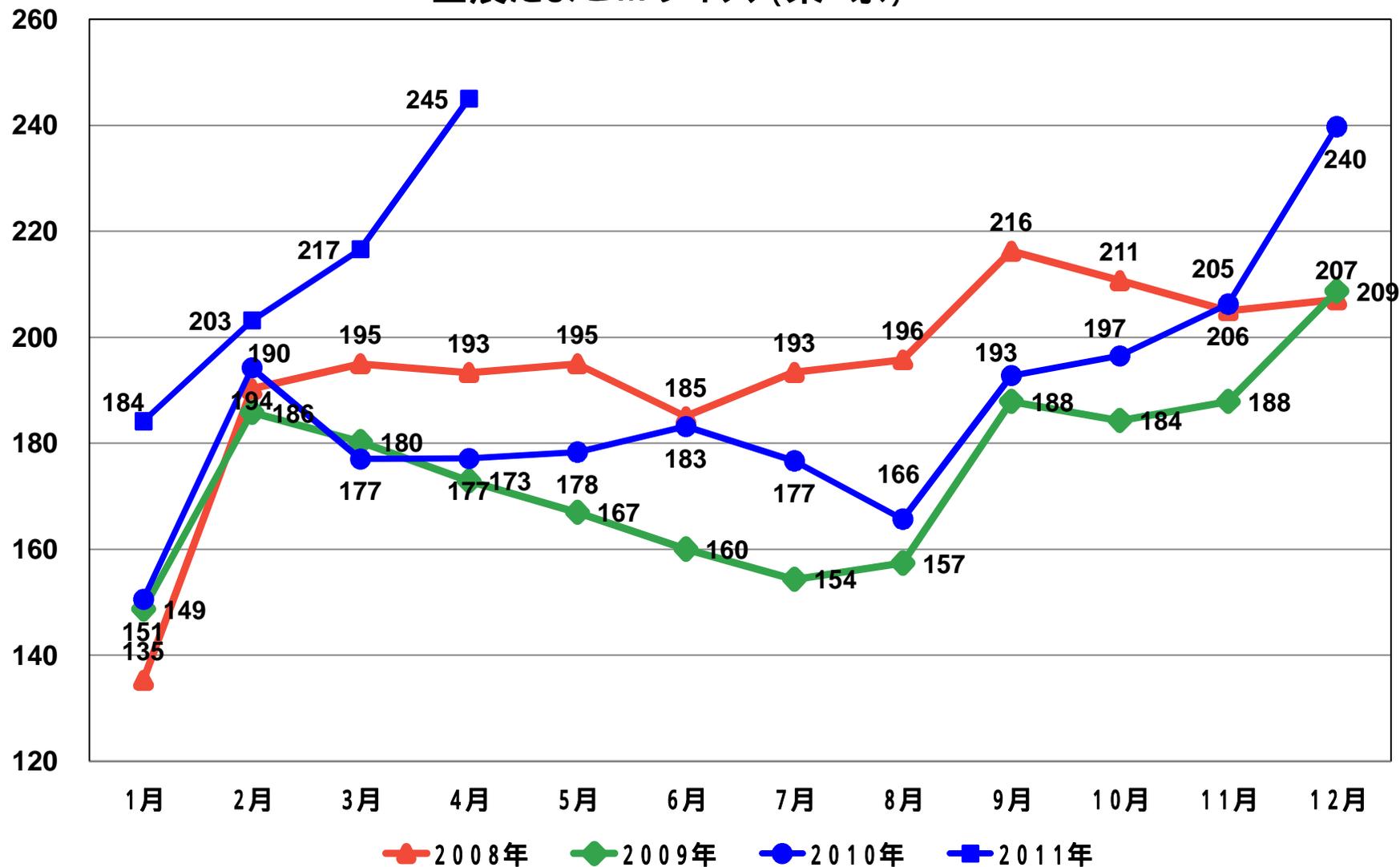
業界を取り巻く環境(5) 鶏卵取引価格の推移

2012年3月期 業績予想



単位:円 / kg

全農たまごMサイズ(東京)





■ 原料相場の動向

● 馬鈴薯

- 作付面積の減少と異常気象により、主産地の北海道産では2年連続の不作となり、馬鈴薯の供給不足が顕著になった。このため、市場価格も高値で推移。
- 本年も北海道では作付けの終盤に入っており、今期の作柄は生育期の天候により左右される。
- 今秋も価格上昇と馬鈴薯不足が懸念される。

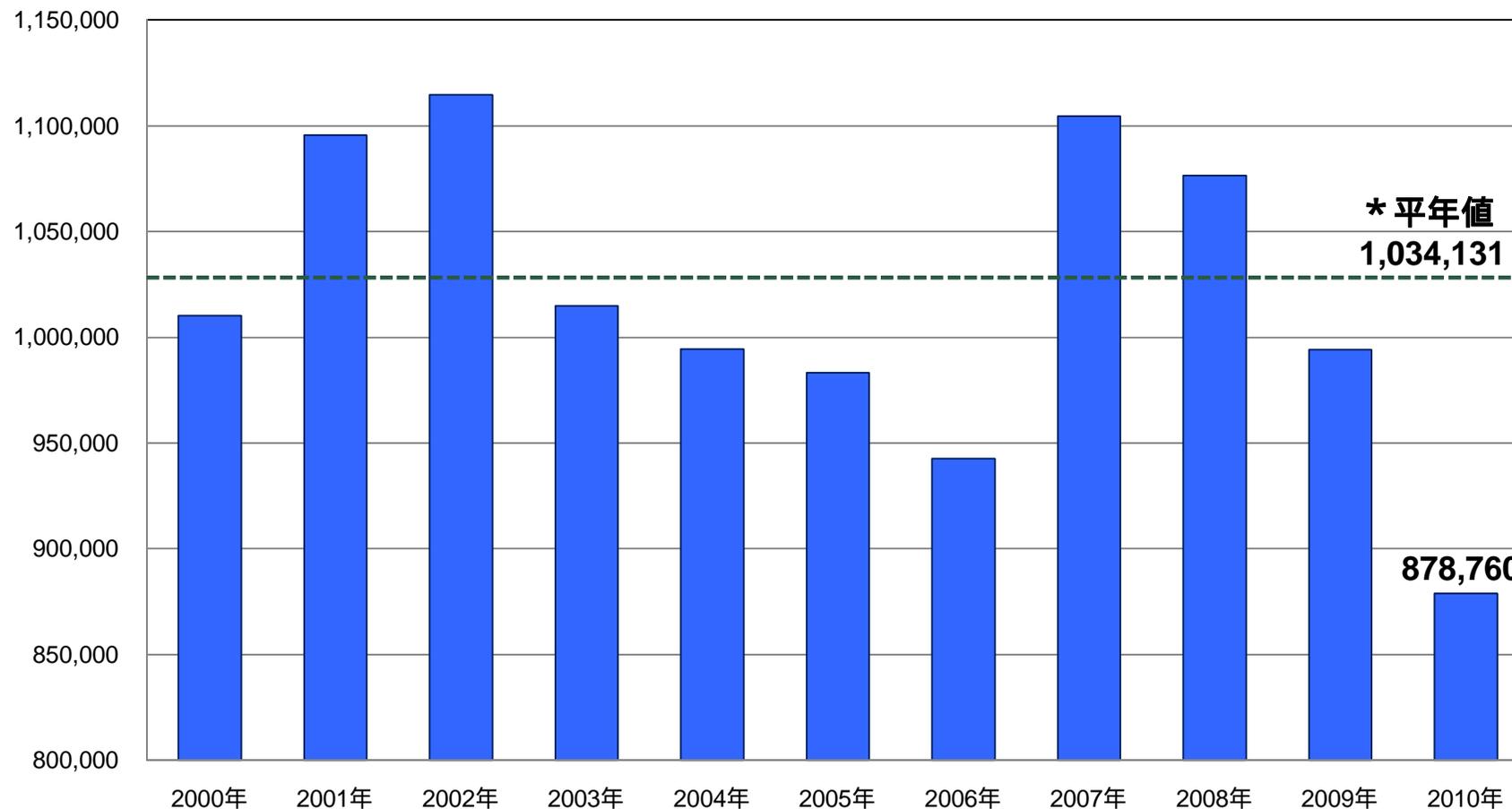
業界を取り巻く環境(7) 馬鈴薯生産量の推移

2012年3月期 業績予想



単位: トン

ホクレン(北海道)



* 平年値: 過去10年間で最大の値・最小の値を除く平均値

中期経営計画 『KENKO Victory ROAD』 (KVR2011) 3年目のポイント(2011年4月～2012年3月) -1



停滞/縮小する市場への対応

1. 商品開発の加速（開発バリエーションと開発領域の拡大）

- ・「食シーン」の多様化への対応(計画停電/水産資源ひっ迫)
- ・Saladノウハウを基盤としてDELICA（総菜）領域への進出
- ・マヨネーズ/ドレッシングからソース領域への進出

2. 新規お客様の開拓と深耕

- ・Cooking Labo TOKYOへのお客様招聘（当社施設）
- ・得意先様展示会への積極的な参加



中期経営計画 『KENKO Victory ROAD』 (KVR2011)

3年目のポイント(2011年4月～2012年3月) -2



3. お客様の分野別にキメの細かな販売体制の確立、 各分野に最適な商品を提案

- ・ 外食(ファミリーレストラン、居酒屋、食堂、回転寿司、ファーストフード他)
- ・ 給食(コントラクトフード、学校給食)
- ・ 量販店の総菜コーナー(側面販売戦略)
- ・ 製パン(規模別商品対応/OPシリーズ)
- ・ シルバー食への対応(プロの味/家庭の味/バリエーション充実)

4. 食品メーカーとしての原点の再確認

- ・ 工場、事務所での5Sの徹底・店舗運営でのQSC徹底



国内事業の深耕と、すそ野の拡大

サ ラ ダ



総 菜

マヨネーズ・ドレッシング



ソ ー ス

タ マ ゴ 加 工 品



殻付きタマゴからタマゴ製品まで

業 務 用 メーカー
(縁の下の力持ち)



市場演出型企業

中国事業の拡大

東莞工場及び杭州工場 軌道乗せ

中国事業の拡大「杭州頂可食品」2011年10月稼動予定

.2012年3月期 業績予想



延べ床面積 22,000m² (6,600坪)、西日本工場とほぼ同規模
4月中旬 基礎工事が完了し、1階建屋を建築中

2012年3月期業績予想(連結)

2012年3月期 業績予想



- 東日本大震災の影響による消費低迷や穀物相場の高値圏での推移を見込みながらも、中期経営計画(KVR)最終年度の目標達成に注力し、売上高経常利益率3.6%を確保する。

単位:百万円・%

	2011年3月期 実績			2012年3月期 予想		
	金額	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
売上高	50,629	100.0	-0.9	52,400	100.0	3.5
売上総利益	14,092	27.8	-1.8	-	-	-
販売管理費	11,319	22.4	-0.7	-	-	-
営業利益	2,773	5.5	-6.0	2,150	4.1	-22.5
経常利益	2,681	5.3	-6.0	1,900	3.6	-29.1
税金等調整前 当期純利益	2,443	4.8	-8.9	-	-	-
当期純利益	1,319	2.6	-8.8	900	1.7	-31.8
1株当たり 当期純利益	103円47銭			63円33銭		-40.14 ^(円)